

両テロ災害対応からの考察

- 準備の有無で大きく異なる
- 経験のある医療者による現場活動が重要
- 手術適応の割合が高く、分散搬送が必須
- 救急車両は不足する
- 手術例も多いが、体幹外傷は意外と少ない
- 大半を占める四肢軟部組織損傷は転送の猶予有り

- 救急ヘリの可能性
- 医師等現場派遣
 - 複数機による患者搬送

ヘリコプターによる医師等現場派遣

△都市部での現場直近着陸は容易ではない

ヘリコプターによる医師等現場派遣

△都市部での現場直近着陸は容易ではない

⇒ 直近屋上緊急離着陸場の利用



△使用許可、連絡方法、地上までの時間

患者搬送

✓ 同様に都市部での現場からのヘリ搬送は限定的

周囲に公園等のオープンスペースがあれば可能性
ただし日頃から使用されていないと難しい

⇒ ヘリポート(緊急離着陸場)所有病院からの搬送

* 課題

- ドクターヘリ基地病院以外での運用方法
- 複数機での運用体制

解決すべき課題

- 転送時の要請/調整ルート
 - 消防との連携/調整
 - 隣接自治体との事前運用協定: 広域連携
 - 176条運用のための体制整備
- 運航調整
 - ドクターヘリ基地病院でない
 - 基地病院から搬送調整チームを派遣。基地病院と調整
- ドクターヘリの他基地病院との通信手段
 - 現状: 消防統制波(全国共通波)で設定
 - 主運用波(都道府県波)で消防と交信
 - 基地病院に連絡
 - 医療用無線の災害時非限定運用(オープン化)
 - 基地病院をできるだけフライトサービス化

解決すべき課題

- 転送時の要請/調整ルート
 - 消防との連携/調整
 - 隣接自治体との事前運用協定: 広域連携
 - 176条運用のための体制整備
 - 運航調整
- 災害時運用にあたっての課題**
- 現状: 消防統制波(全国共通波)で設定
 - 主運用波(都道府県波)で消防と交信
 - 基地病院に連絡
 - 医療用無線の災害時非限定運用(オープン化)
 - 基地病院をできるだけフライトサービス化

東京は大丈夫か!?

- ◇ 26の救命救急センター
- ◇ 日本最大の自治体消防 東京消防庁
- ◇ ヘリ8機(大型4, 中型4)所有
- ◇ 119番 ヘリ管制一元運用
- ◇ 救急搬送も島嶼中心に実施

- △ 小型機を有していない
- △ 病院側にヘリ利用のノウハウが乏しい
- × ドクターヘリなし

結語

- 爆発物テロ災害に対する救急ヘリコプター運用の可能性を検討した
- 都市部での発生であっても必要性は高く、ヘリ着陸可能病院を中心に、分散搬送可能な体制を築くことが必要である
- 転送時のシステム、ドクターヘリ基地病院からの搬送調整支援チームの派遣、医療無線の災害時オープン化等を検討すべきである

厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)

平成 26 年度 分担研究報告書

「関係諸機関との連携のあり方」

平成 27 年 3 月

研究分担者

森野 一真 (山形県立救命救急センター 副所長)

研究協力者

萬年 琢也 (山形県立救命救急センター)

「関係諸機関との連携のあり方」

研究分担者 森野一真 山形県立救命救急センター 副所長

研究要旨

CBRNE 事態において、情報管理の重要性は非常に重要である。昨年度の研究では、現地調整所における、(1)情報管理に関する知識や訓練の不足、(2)共有すべき情報に関する事前調整の不足、(3)処理すべき情報量の増加に対する対応力不足について指摘した。それらを補完するため、現地調整所における情報管理支援の道具として、ポリオレフィンシートに印刷した各種表を下敷きとし、ポリプロピレンシートを記録用紙として利用するキットを発案した。

研究協力者

萬年琢也 山形県立救命救急センター

A 研究目的

CBRNE 事態の発生現場を中心とする対応の枠組みは、平成 13 年に作成された「NBC テロ対処現地関係機関連携モデル NBC 現地対処機関連携モデル」として、現在も用いられている。本研究は関係諸機関との連携のあり方に関し検討する。

B 研究方法

平成24年11月20日に行われた山形県国民保護共同実動訓練における現地調整所における情報管理の課題として、1)情報の記録、2)関係機関の活動状況の把握と調整が挙げられた(図1)。

CBRNE 事態が稀であり、訓練も数年に1回程度ということも稀でなく、現地調整所における調整役の行政職にとり、適切な情報管理は難しい。また、日頃から訓練や研修を行っている警察、消防、自衛隊、救護班にとっても、常に決められた記録ボードを利用でききるわけではなく、時系列活動記録表の作成には苦慮する事も稀ではなく、ひな形の必要性も指摘されていた。

近年、災害時等における記録用紙として、軽量

かつ静電気により壁等の平面に貼付可能なポリプロピレンシートが頻用されている。このシートへのひな形の印刷が困難なため、印刷可能で、壁等の平面に貼付可能なポリオレフィンシートにひな形を印刷、それを下敷きとし、ポリプロピレンシートに記入するキットを作成する。

C 研究成果

1. ひな形表の作成

ポリオレフィンシートに以下の3種のひな形の表を印刷し、下敷きを作成した。

1) 経時的活動記録表(図2)

2) 現地調整所確認事項表(図3)

- | | |
|----|----------|
| 1 | NBC 対応周知 |
| 2 | 参集機関 |
| 3 | 各機関展開場所 |
| 4 | 駐車場 |
| 5 | 通行経路 |
| 6 | 応援体制 |
| 7 | 警戒区域 |
| 8 | 危険区域 |
| 9 | 調整指揮 |
| 10 | 通信連絡方法 |
| 11 | 定時協議周知 |
| 12 | マスコミ対応 |

- 13 個人防護
- 14 検知
- 15 傷病者救出経路
- 16 傷病者除染経路
- 17 プライバシー
- 18 除染前トリアージ
- 19 除染区域
- 20 テント等
- 21 除染後トリアージ
- 22 救護所
- 23 受入れ医療機関
- 24 避難場所
- 25 搬入地点
- 26 ヘリポート

3) 現地調整所用機関活動記録表 (図 4)

これらは模造紙のように丸めて容易に運搬できる (図 5)。

2. ポリプロピレンシートを用いた記録

作成したひな形シートを平面に貼付し (図 6)、その上にポリプロピレンシートを貼付した後に記録が可能である (図 7)。

D 考察

災害対応における情報管理の重要性は重要で、その不具合は混乱の原因となる。特に、1) 情報の記録、2) 関係機関の活動状況の把握と調整は重要な項目である。

災害の中でも、CBRNE 事態は稀であり、訓練も数年に 1 度程度ということも稀でなく、現地調整所における調整役の行政職にとり、適切な情報管理は難しい。このため、技術的な支援が必要であると考え、汎用性、可搬性、利便性の高い道具として、経時的活動記録のひな形、調整に必要な事項のチェックリスト、各機関の活動状況を可視化する表の作成を検討した。

近年、災害時等における記録用紙として、軽量かつ静電気により壁等の平面に貼付可能なポリプロピレンシートが頻用されている。一方、ポリオレフィンシートも壁紙等に用いられ、糊等を使用する事無くそのまま平面に貼付可能で、いずれも燃焼による塩素ガスやダイオキシンの発生

ない環境配慮性を有している。いずれも複数回の貼付が可能である。ポリプロピレンシートは比較的安価であるのに対し、ポリオレフィンシートは高価である一方、前者は印刷ができず、後者は印刷可能という特徴を有している。以上より、二種類のシートの組み合わせることにより、汎用性、可搬性、利便性の高い道具の作成が可能であると考えた。今後、訓練や研修において使用し、改善を行いたい。

E 結論

現地調整所の情報管理支援の道具として、ポリオレフィン、ポリプロピレン製のシートを組み合わせ、1) 経時的活動記録表、2) 現地調整所確認事項表、3) 現地調整所用機関活動記録表を作成した。

F. 健康危険情報

特に無し

G 研究発表

特に無し

H 知的財産権の出願・登録状況

特になし

図3 現地調整所確認事項表

現地調整所確認事項 Ver.1.0

(C) Kazuma Morino
all rights reserved.

	事 項	確 認	特 記
1	NBC対応周知		
2	参集機関		
3	各機関展開場所		
4	駐車場		
5	通行経路		
6	応援体制		
7	警戒区域		
8	危険区域		
9	調整指揮		
10	通信連絡方法		
11	定時協議周知		
12	マスコミ対応		
13	個人防護		
14	検知		
15	傷病者救出経路		
16	傷病者除染経路		
17	プライバシー		
18	除染前トリアージ		
19	除染区域		
20	テント等		
21	除染後トリアージ		
22	救護所		
23	受入医療機関		
24	避難場所		
25	搬入地点		
26	ヘリポート		
27			
28			
29			

図5 高い可搬性

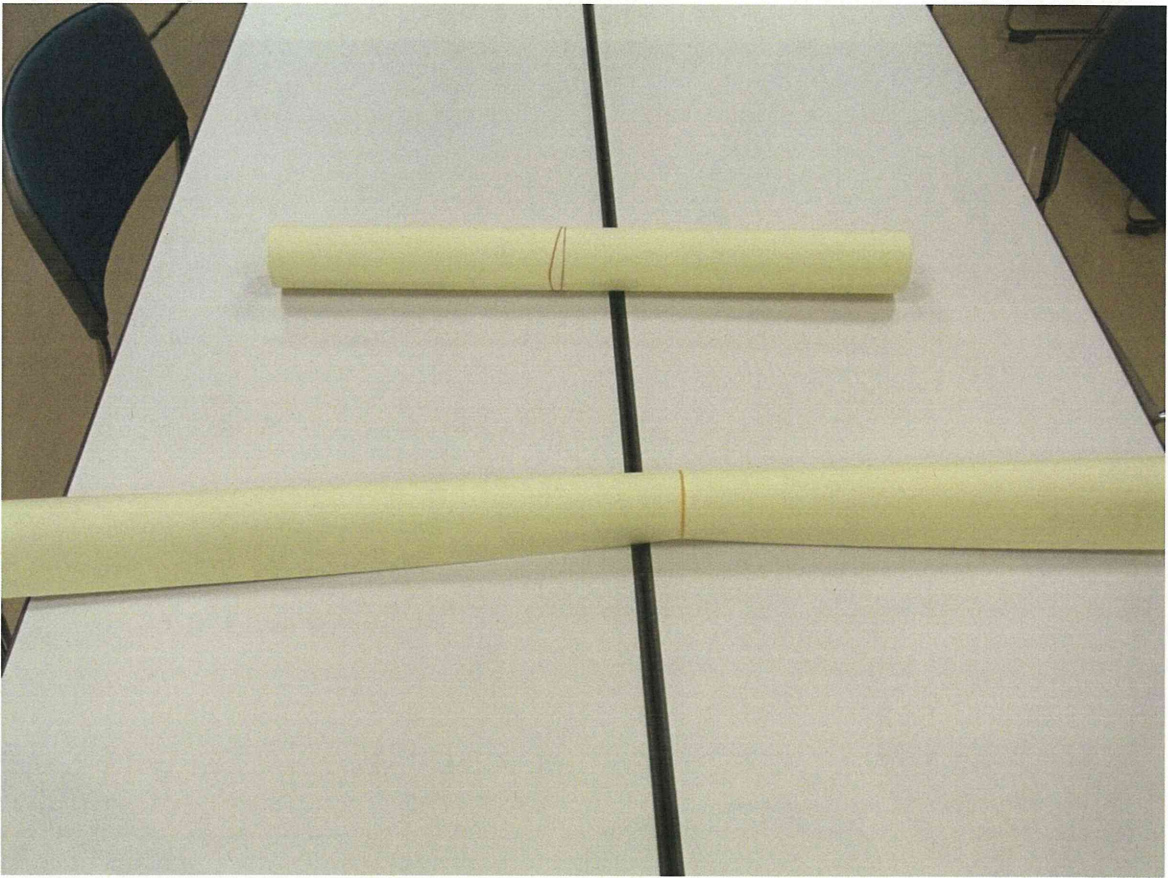


図6 ひな形シートの貼付

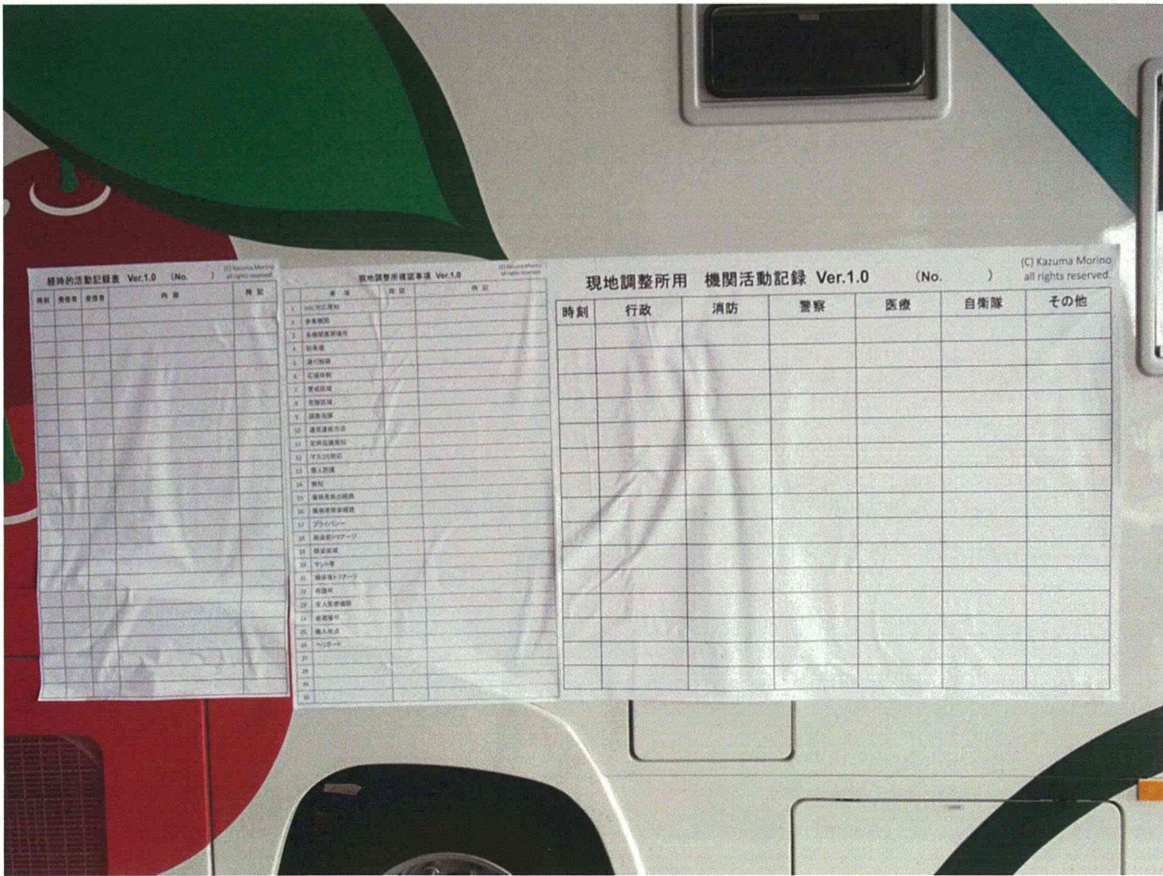


図7 ポリプロピレンシートへの記録

(C) Kazuma Morino
all rights reserved.

現地調整所用 機関活動記録 Ver.1.0 (No.)

時刻	行政	消防	警察	医療	自衛隊	その他
10:01						
11:00		NBC隊到着	警戒区域設定	救急隊到着		
11:15		←危険区域→				住民避難指示
11:20		NBC隊到着			県から派遣要請	
11:30	現地調整所設置	応援隊到着				
11:35	市(国一社)					
			現地調整の必要事項の確認。(12回)		応援隊到着	
11:45		応援隊到着の完了				
11:50				県中へ到着		
12:00				県中へ到着 市(国一社)		

厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)

平成 26 年度 分担研究報告書

「中毒情報との連携のあり方」

平成 27 年 3 月

研究分担者

黒木 由美子 (公財)日本中毒情報センター 施設長

研究協力者

荒木 浩之	(公財)日本中毒情報センター 課長
飯田 薫	(公財)日本中毒情報センター 係長
今別府文昭	(公財)日本中毒情報センター 係長
藤見 聡	大阪府立急性期・総合医療センター 部長
水谷 太郎	(公財)日本中毒情報センター 業務執行理事
津島 岳士	(公財)日本中毒情報センター 業務執行理事
吉岡 敏治	(公財)日本中毒情報センター 代表理事

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
「CBRNE事態における公衆衛生対応に関する研究」

分担研究報告書

「中毒情報との連携のあり方」

—平成 26 年度 NBC 災害・テロ対策研修 講義評価アンケート調査—

研究分担者	黒木由美子	(公財) 日本中毒情報センター	施設長
研究協力者	荒木浩之	(公財) 日本中毒情報センター	課長
研究協力者	飯田 薫	(公財) 日本中毒情報センター	係長
研究協力者	今別府文昭	(公財) 日本中毒情報センター	係長
研究協力者	藤見 聡	大阪府立急性期・総合医療センター	部長
研究協力者	水谷太郎	(公財) 日本中毒情報センター	業務執行理事
研究協力者	嶋津岳士	(公財) 日本中毒情報センター	業務執行理事
研究協力者	吉岡敏治	(公財) 日本中毒情報センター	代表理事

研究要旨

本分担研究では DMAT 等医療チームに対して実施している「NBC 災害・テロ対策研修」の研修内容・方法等の向上に資することを目的として、昨年度に引き続き受講生に講義に対する評価のアンケート調査を行った。

平成 26 年度に 2 回開催した NBC 災害・テロ対策研修の受講生 149 名（第 1 回 75 名、第 2 回 74 名）に対し、研修終了後に講義評価アンケートを実施し、136 名（第 1 回 69 名、第 2 回 67 名）から回答を得た（回収率は第 1 回 92.0%、第 2 回 90.5%）。アンケートの項目は①内容、②講師、③テキストの見やすさとし、評価は 5 段階評価とした。

アンケート調査の結果、①内容評価の全講義の平均は、第 1 回が 4.68、第 2 回 4.70 であった。②講師評価の全講義の平均は、第 1 回が 4.59、第 2 回が 4.39 であった。③テキストの見やすさの評価の全講義の平均は、第 1 回が 4.51、第 2 回が 4.34 であった。いずれの平均も 4 以上の評価であり、昨年に引き続き研修全体として高い評価を得ていた。

今年度からグループ研修である「机上演習（化学災害院内対応）」は、設問に対する回答の方法を“クリッカー”と呼ばれる Audience Response System（聴衆応答システム）を導入し実施した。講義評価は第 1 回が①内容 4.76、②講師 4.78、③テキストの見やすさ 4.52（平均 4.68）、第 2 回が①内容 4.51、②講師 3.92、③テキストの見やすさ 4.00（平均 4.14）という結果であった。受講生は集中が切れることなく受講している様子であった。また、記入式アンケートによるコメントでは「講師以外にファシリテーターが欲しい」という要望があった。一方、クリッカーを使用せずに実施したグループ研修「机上演習（スローオンセット）」の講義評価は、第 1 回が①内容 4.23、②講師 4.01、③テキストの見やすさ 4.01（平均 4.08）、第 2 回が①内容 4.07、②講師 3.61、③テキストの見やすさ 3.69（平均 3.79）という結果であった。講師から距離が遠いグループでは集中が維持できない様子であった。また、記入式アンケートによるコメントでは「医療機関での具体的な対応法を教えて欲しい」という内容に対する要望もあがった。

クリッカーを導入したグループ研修では一定の成果があった。今後もよりよい研修を実施するために、研修内容および研修方法に工夫を加えたい。

A. 研究目的

公益財団法人日本中毒情報センターでは、厚生労働省医政局から委託を受け平成 18 年から DMAT 等医療チームに対して「NBC 災害・テロ対策研修」を実施してきた。

本分担研究では、NBC 災害・テロ対策研修の研修内容・方法等の向上に資することを目的として、昨年度に引き続き受講生に講義に対する評価のアンケート調査を実施した。

B. 研究方法

平成 26 年度に 2 回開催した NBC 災害・テロ対策研修の受講生 149 名（第 1 回 75 名、第 2 回 74 名）に対し、研修終了後に講義評価アンケートを実施し、136 名（第 1 回 69 名、第 2 回 67 名）から回答を得た（回収率は第 1 回 92.0%、第 2 回 90.5%）。

アンケートの項目は①内容、②講師、③テキストの見やすさとし、評価は 5 段階評価とした。

資料 1 に研修プログラムを、資料 2 にアンケート調査用紙を示す。

C. 研究結果

平成 26 年度に 2 回開催した NBC 災害・テロ対策研修の講義評価アンケート結果について第 1 回を表 1 および図 1 に、第 2 回を表 2 および図 2 に示す。

評価は 5 段階評価であり、①内容評価の全講義の平均は、第 1 回が 4.68、第 2 回 4.70 であった。②講師評価の全講義の平均は、第 1 回が 4.59、第 2 回が 4.39 であった。③テキストの見やすさの評価の全講義の平均は、第 1 回が 4.51、第 2 回が 4.34 であった。いずれの平均も 4 以上の評価であり、昨年に引き続き研修全体として高い評価を得ていた。

本研修では、2 つのグループ研修を設定している。ひとつは「机上演習（化学災害

院内対応）」（講義時間は 2 時間）であり、これは院内における化学災害時の役割分担の確立、すなわち指揮命令系統の確立に注目し、これから多数の患者の来院が予想され限られた医療スタッフでどのような初動体制を組み立てるかについて、グループワークを通して学ぶものである。他方は「机上演習（スローオンセット）」（講義時間は 2 時間）であり、スローオンセット型（カバード型）である生物災害時の対応について留意すべき点を、グループワークを通して学ぶものである。

今年度から「机上演習（化学災害院内対応）」は、第 1 回、第 2 回とも設問に対する回答の方法を“クリッカー”と呼ばれる Audience Response System（聴衆応答システム）を導入し実施した。これは講師の設問に対し、受講生が赤外線リモコンにより番号で回答すると、即座にスクリーン上に番号毎の回答数がグラフとして表示されるものである。このクリッカーを用いて、受講生との双方向性でより能動的な講義を試みた。

講義評価は第 1 回が①内容 4.76、②講師 4.78、③テキストの見やすさ 4.52（平均 4.68）、第 2 回が①内容 4.51、②講師 3.92、③テキストの見やすさ 4.00（平均 4.14）という結果であった。受講生は集中が切れることなく受講している様子であった。また、記入式アンケートによるコメントでは「講師以外にファシリテーターが欲しい」という要望があり、さらに改善の余地が伺えた。

一方、クリッカーを使用せず、通常の講義スタイルである「机上演習（スローオンセット）」の講義評価は、第 1 回が①内容 4.23、②講師 4.01、③テキストの見やすさ 4.01（平均 4.08）、第 2 回が①内容 4.07、②講師 3.61、③テキストの見やすさ 3.69（平均 3.79）という結果であった。講師から距離が遠いグループでは集中が維持できない様子であった。また、記入式アンケートによるコメントでは

「医療機関での具体的な対応法を教えて欲しい」という内容に対する要望もあり、より受講生にとって身近に感じる講義内容とする必要性が伺えた。

D. 考察

通称“クリッカー”と呼ばれる Audience Response System (聴衆応答システム) は、講師と受講生の双方向の講義を可能にし、講師がどれだけ情報を“言ったか”ではなく、受講生がどれだけ“理解できたか”という点において優れており、大学等の教育現場で普及している¹⁾。さらに、スマホ時代の到来により学生のスマホ所有率は80%の見通しになるとして、クリッカーアプリの活用について検討している大学も出てきており、今後スマホやタブレットを視野にいれた取り組みが必要であるという報告もある²⁾。このように“クリッカー”を用いた学習方法は、現在、より身近な学習方法となってきた。

今回はグループ研修である「机上演習(化学災害院内対応)」にクリッカーを導入することにより、受講生が自ら考える能動的な講義を実施でき、一定の成果があった。また、今後の課題として、グループによる机上訓練では受講生の理解をさらに深めるために、ファシリテーターを増やすなど強化を図る必要があると考える。

引き続き、よりよい研修を実施するために、必要に応じて研修内容および講義方法に工夫を加えたい。

E. 結論

本研究のアンケート調査から、DMAT等医療チームに対して実施しているNBC災害・テロ対策研修は、昨年に引き続き受講生から高い評価を得ていることが判明した。

グループ研修の机上訓練では Audience Response System (聴衆応答システム) の導

入により、より能動的な研修が実施できた。また、グループ研修では受講生の理解をさらに深めるためにファシリテーターを増やすなど強化を図る必要がある。

参考文献

- 1) 鈴木久男、武貞正樹、引原俊哉、他：授業応答システム“クリッカー”による能動的学習授業. 高等教育ジャーナル-高等教育と生涯学習- 2008 ; 16: 1-17.
- 2) 名古屋学院大学：クリッカーアプリの活用. 大学情報システム研究委員会 2013FD 研修 (IT 講習) 2013; 公益財団法人私立大学情報教育協会ホームページ <http://www.juce.jp/info-system/pdf/1302.pdf> (参照日：2015年2月28日)

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

平成 26 年度第 1 回大阪 NBC 災害・テロ対策研修プログラム

【第1日目】 第1回大阪:11月6日(木)

0830-0900	受付	
0900-0905	開会挨拶	日本中毒情報センター 代表理事 吉岡 敏治
0905-0920	「本研修について」	東京医科歯科大学 大友 康裕
0920-1000	「NBC総論」-テロ・災害時の連携、JPICの化学災害対策を中心に-	日本中毒情報センター 吉岡 敏治
1000-1040	「化学兵器総論(化学剤、ゾーニング、除染、PPE)」	環境省(元 陸上自衛隊)中村 勝美
1040-1050	休憩	
1050-1130	「化学テロ・災害、事例検討」	日本中毒情報センター 嶋津 岳士
1130-1210	「生物災害」	国立感染症研究所 松井 珠乃
1210-1300	昼食	
1300-1340	「放射線災害、事例検討」	放射線医学総合研究所 富永 隆子
1340-1420	「サーバイメーターの使用法および実習」	放射線医学総合研究所 富永 隆子
		放射線医学総合研究所 椎野 剛成
		放射線医学総合研究所 松田 拓哉
		放射線医学総合研究所 鬼頭 靖司
1420-1430	休憩	
1430-1450	「爆傷・災害対応」	日本医科大学 布施 明
1450-1550	「NBC テロ診療手順 デモと解説」	東京医科歯科大学 大友 康裕
		藤沢市民病院 阿南 英明
		日本医科大学 布施 明
		平鹿総合病院 岩間 直
1550-1650	「医師向け専門講義(NBC各20分)〈医師・看護師のみ〉」	「事務向け講義」〈調整員のみ〉
	日本中毒情報センター 吉岡 敏治 国立感染症研究所 松井 珠乃 放射線医学総合研究所 富永 隆子	(国民保護法、地域連携、連携モデル) 救急振興財団・北九州市危機管理 郡山 一明
1650-1700	休憩	
1700-1900	「机上演習(化学災害院内対応)」	大阪府立急性期・総合医療センター 藤見 聡

【第2日目】 第1回大阪:11月7日(金)

0830-1200	<p>「模擬患者を用いた診療実習」〈医師・看護師のみ〉</p> <p>東京医科歯科大学 大友 康裕 藤沢市民病院 阿南 英明 災害医療センター 小井土 雄一 山形県立救命救急センター 森野 一真 静岡県立総合病院 登坂 直規 放射線医学総合研究所 富永 隆子 平鹿総合病院 岩間 直 前橋赤十字病院 高橋 栄治 大阪府立急性期・総合医療センター 藤見 聡 松戸市立病院 庄古 知久</p>	<p>「事務向け講義(院内対応)」〈調整員のみ〉</p> <p>鳥取大学医学部 本間 正人 村山医療センター 楠 孝司 水戸医療センター 佐藤 和彦 災害医療センター 高以良 仁</p>
1200-1300	昼食（「トリアージと除染」ビデオ放映 10分）	
1300-1500	「机上演習(スローオンセット)」	国立感染症研究所 大日 康史 国立保健医療科学院 齋藤 智也
1500-1510	休憩	
1510-1650	筆記試験・実技試験	
1650-1700	休憩	
1700-1820	「総合演習(実技訓練)へ向けてのNBCエマルゴ」 防護服着脱演習	鳥取大学医学部 本間 正人他
1820-1830	合格発表	

【第3日目】 第1回大阪:11月8日(土)

0830-1030	<p>「パネルディスカッション（関係機関の災害医療体制と対応）」</p> <p>司会:日本中毒情報センター 嶋津 岳士 パネリスト:厚生労働省 葛西 毅彦 警察庁 石飛 昇 消防庁 小林 信之 環境省(元 陸上自衛隊) 中村 勝美 日本中毒情報センター 黒木 由美子</p>	
1030-1115	総合演習(説明)と設営	鳥取大学医学部 本間 正人
1115-1215	昼食（着替え）	
1215-1615	「総合演習(実技訓練)」	鳥取大学医学部 本間 正人、東京医科歯科大学 大友 康裕、 大阪府立急性期・総合医療センター 藤見 聡、静岡県立総合病院 登坂 直規、 平鹿総合病院 岩間 直、前橋赤十字病院 高橋 栄治、 村山医療センター 楠 孝司、水戸医療センター 佐藤 和彦、 災害医療センター 高以良 仁
1615-1630	講評	東京医科歯科大学 大友 康裕

平成26年度第1回NBC災害・テロ対策研修 アンケート
(11/6～11/8)

●あなたの受講職種はなんですか。

医師 看護師

業務調整員 {実務：事務、薬剤師、放射線技師、医師、看護師、その他()}

●勤続年数

～1年 1～3年 3～5年 5～10年 10～20年 20年～

●講義評価

	(内容評価)					(講師評価)					(テキストの見やすさ)									
	本セミナーには不要					必要	悪い					良い								
[第1日目]																				
1 「本研修について」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2 「NBC総論」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3 「化学兵器総論 (化学剤、ゾーニング、除染、PPE)」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4 「化学テロ・災害、事例検討」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5 「生物災害」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6 「放射線災害、事例検討」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7 「サーベイメーターの使用法および実習」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8 「爆傷・災害対応」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9 「NBCテロ診療手順 デモと解説」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10 「医師向け専門講義 (化学)」〈医師・看護師のみ〉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11 「医師向け専門講義 (生物)」〈医師・看護師のみ〉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12 「医師向け専門講義 (放射線)」〈医師・看護師のみ〉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13 「事務向け講義」〈調整員のみ〉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14 「机上演習 (化学災害院内対応)」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
[第2日目]																				
15 「模擬患者を用いた診療実習」〈医師・看護師のみ〉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16 「事務向け講義 (院内対応)」〈調整員のみ〉	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17 「机上演習 (スローオンセット)」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18 「総合演習 (実技訓練) へ向けてのNBCエマルゴ」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
[第3日目]																				
19 「パネルディスカッション (関係機関の災害医療体制と対応)」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20 「総合演習 (説明)」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21 「総合演習 (実技訓練)」	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

平成 26 年度第 1 回 NBC 災害・テロ対策研修 アンケート
(11/6～11/8)

●この研修会内容は、病院の NBC テロ発生時の対応の向上に寄与しますか。

- 1 大いに寄与する 2 多少寄与する 3 あまり寄与しない

●NBC テロ対応マニュアルを、貴施設で作成していますか。

- 1 既に作成済み 2 作成中 3 今後作成したい 4 必要ない

★NBC テロ対応マニュアルを既にお持ちの施設の方にお聞きします。

- 1 マニュアルは、常に改訂可能にしている 2 必要があれば改訂している 3 改訂しない

●この研修会内容で、NBC テロ対策教育として不足していると思われること、その他改善すべき点がございましたら、ご記入ください。(個別科目に関するご意見については、科目名をご記入下さい。)

●この実習で良かったところをご記入下さい。(個別科目に関するご意見については、科目名をご記入下さい。)

アンケートにご協力頂きありがとうございました。